



Cisco UCS バックアップソリューションテスト（ディスクツードISK）

初版：2012年08月31日

最終更新：2012年10月04日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



目次

バックアップソリューション テスト 1

概要 1

バックアップ テストの戦略 2

テスト構成と環境 3

テスト構成 3

環境マトリクス 4

テストの実装および対象となる機能 5

設計と実装 5

テスト対象機能 6

NetVault Backup ソフトウェアによる UCS のテスト シナリオ 9

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準のフルバックアップ 10

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準の増分バックアップ 11

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：Volume Shadow Copy Services：フルバックアップ 13

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：Volume Shadow Copy Services：増分バックアップ 14

Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準のフルバックアップ 16

Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：増分バックアップ 17

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：Online Virtual Device Interface：フルバックアップ 19

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：Online Virtual Device Interface：差分バックアップ 20

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : Volume Shadow Copy Services : フルバックアップ	22
MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : Volume Shadow Copy Services : 差分バックアップ	23
MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : 増分トランザクションログバックアップ	25
MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : フルファイルおよびファイルグループバックアップ	27
CA ARCserve Backup ソフトウェアによる UCS のテスト シナリオ	29
Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : 通常のフルバックアップ	30
Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : 通常の増分バックアップ	31
Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : 通常の差分バックアップ	33
Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : 通常のフルバックアップ	34
Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : 通常の増分バックアップ	36
Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : 通常の差分バックアップ	38
MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : フルバックアップ	39
MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : 差分バックアップ	41
制限事項 1	42
制限事項 2	43
関連資料	43



第 1 章

バックアップソリューションテスト

- [概要, 1 ページ](#)
- [バックアップテストの戦略, 2 ページ](#)

概要

このプログラム（バックアップテスト：ディスクツーディスク）では、Cisco UCS 環境の Windows および Linux オペレーティング システムからのデータのバックアップと、Cisco UCS C シリーズのローカル ディスク（ローカル HDD）に格納されたバックアップ データを確認します。

バックアップ テストの目的は、「[テスト対象機能](#)」セクションで説明されているデータ リポジトリ モデルを使って、バックアップ ソフトウェア（NetVault Backup および CA ARCserve Backup）によるデータやデータベースのバックアップおよび復元を確認することです。

略語

略語	説明
10 GbE	10 ギガビット イーサネット
APM	Application Plugin Module
CIMC	Cisco Integrated Management Controller
CNA	Converged Network Adapter
DB	Database
HDD	ハード ディスク ドライブ
JOS	日本語版オペレーティング システム
MDS	Multilayer Director Switch
OS	オペレーティング システム
RAID	Redundant Array of Independent Disks

略語	説明
RHEL	Red Hat Enterprise Linux
SAN	Storage Area Network
SP	サービス パック
SQL	Structured Query Language
UCS	Unified Computing System
UCSM	Unified Computing System Manager
VDI	Virtual Device Interface
VM	仮想マシン
vNIC	仮想 NIC
VSS	Volume Shadow Copy Service

バックアップテストの戦略

バックアップテスト（ディスクツーディスク）について収集された要件は、日本市場に固有のものであります。

以下の要件は、Cisco Japan のソリューション エンジニアが提供した情報や優先事項に基づいています。

- 仮想マシンとしてインストールされた、MS Windows 7 および RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステムからデータをバックアップします。データファイルには Microsoft Excel、Microsoft Word、および PDF が含まれます。
- 仮想マシンとしてインストールされた Windows Server 2008 R2 SP1 日本語版オペレーティングシステム上の MS SQL Server からデータベースをバックアップします。
- Cisco UCS B シリーズ サーバ（B200 M2、B230 M2、および B250 M2）にインストールされた ESXi 5.0 で仮想マシンを利用できます。
- Quest NetVault Backup 8.6.3 および CA ARCserve Backup r16 を使用します。
- バックアップデータは、Cisco UCS C シリーズ サーバ（C240 M3 および C220 M3）のローカル HDD に格納されます。



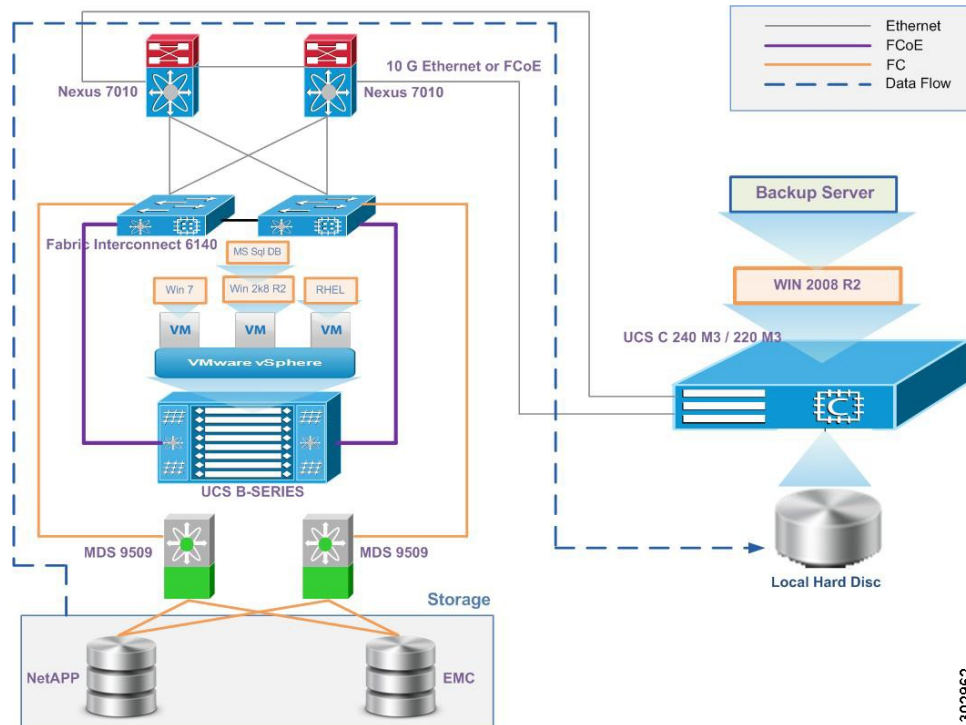
第 2 章

テスト構成と環境

- [テスト構成, 3 ページ](#)
- [環境マトリクス, 4 ページ](#)

テスト構成

図 1: バックアップテスト (ディスクツーディスク) の構成



環境マトリクス

コンポーネント	バージョン/製品
UCS	
1. UCSM	2.0(3a)
2. ブレード サーバ	B200 M2、 B230 M2、 B250 M2
3. CNA	M81KR
4. ラックマウント サーバ	C240 M3、 C220 M3
5. CNA	P81E VIC
6. CIMC	1.4(4a)
バックアップ ソフトウェア	
1. Quest NetVault Backup	8.6.3
2. CA ARCserve Backup	r16
オペレーティング システム	
1. Windows Server	Windows Server 2008 R2 SP1 x64 (日本語版 OS)
2. Windows OS	Windows 7 Enterprise SP1 x64 (日本語版 OS)
3. RHEL	Red Hat Enterprise Linux 6.1 x64 (日本語版)
Database	
MS SQL Server	Microsoft SQL Server 2008 R2 Enterprise x64 (日本語版)
ハイパーバイザ	
ESXi	VMware ESXi 5.0 Update 1
スイッチ	
1. Nexus 7010	6.0(2)
2. MDS 9509	5.2(2a)
Storage	
1. EMC CX4-120	4.29.0.5.003
2. NetApp FAS3240	8.0.2



第 3 章

テストの実装および対象となる機能

- [設計と実装, 5 ページ](#)
- [テスト対象機能, 6 ページ](#)

設計と実装

このプログラムにおいてテストチームは、日本語環境向け UCS サーバ内の NetVault Backup ソフトウェアと CA ARCserve Backup ソフトウェアの機能の検証およびチェックを行いました。まず JOS ベースシステムのサーバやクライアントなどのバックアップサーバコンポーネントのインストールを行い、それから B シリーズサーバから C シリーズサーバへのバックアップの統合およびスケジュール設定を行いました。

実装段階では以下のアクティビティが実行されました。

- VMware ESXi 5.0 U1 を、SAN からブートするように設定されている B シリーズサーバ (B200 M2、B230 M2、および B250 M2) にインストールしました。
- Windows Server 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステムを、RAID 5 (シングルパリティ) で設定されている C シリーズサーバ (C240 M3 および C220 M3) のローカルハードディスクにインストールしました。
- ESXi 5.0 がインストールされている B シリーズサーバで、3 台の仮想マシンが作成され、それぞれに以下の日本語版オペレーティングシステムがインストールされました。

Windows 7 Enterprise SP1 x64

Windows Server 2008 R2 SP1 x64

Red Hat Enterprise Linux 6.1 x64

- バックアップデータの読み取りおよび書き込み操作用に、C シリーズ CNA カード (vNIC) から B シリーズブレードサーバへの 10 GbE 接続が確立されました。
- C シリーズサーバには Windows Server 2008 R2 SP1 x64 の日本語版オペレーティングシステムがインストールされ、その上に Quest NetVault Backup 8.6.3 および CA ARCserve Backup r16 サーバソフトウェアがインストールされました。

- 仮想マシンには、Quest NetVault Backup 8.6.3 および CA ARCserve Backup r16 ソフトウェア クライアント エージェントがインストールされました。
- NetVault Backup ソフトウェアは、特定のプラグインを使用して Microsoft SQL データベースのバックアップを行います。SQL プラグインが、Microsoft Windows Server 2008 R2 の日本語版オペレーティング システムと日本語版 Microsoft SQL Server 2008 R2 にインストールされました。
- Quest NetVault Backup 8.6.3 および CA ARCserve Backup r16 ソフトウェア サーバがインストールされた C シリーズ サーバでは、クライアント エージェントがバックアップ ソフトウェアに追加されました。

テスト対象機能

以下のバックアップ方法で、データ バックアップのテストが行われました。

フルバックアップ

フルバックアップは他のすべてのタイプのバックアップの開始点であり、バックアップ対象として選択したフォルダおよびファイル内のすべてのデータが含まれます。フルバックアップではすべてのファイルとフォルダが格納されるため、フルバックアップを頻繁に実行すると、復元操作がより迅速かつシンプルになります。

差分バックアップ

差分バックアップには、前回のフルバックアップ以降に変更されたすべてのファイルが含まれます。差分バックアップを行うメリットは、フルバックアップや増分バックアップに比べて、復元時間が短くなることです。ただし、差分バックアップをあまりに頻繁に実行すると、差分バックアップのサイズがベースラインのフルバックアップより大きくなる可能性があります。

増分バックアップ

増分バックアップでは、前回のフルバックアップ、差分バックアップ、または増分バックアップ以降に変更されたすべてのファイルが格納されます。増分バックアップの利点は、完了するまでの時間が最も短いことです。ただし、復元操作中に各増分バックアップが処理される必要があり、復元ジョブに時間がかかることがあります。

MS SQL データベースについて、以下のバックアップ方法およびバックアップ タイプでテストが行われました。

NetVault SQL Server APM のバックアップ方法。

Online Virtual Device Interface (VDI)

Online VDI バックアップでは、バックアップ戦略の定義の信頼性と柔軟性が最大限に高まります。このバックアップ方法では、SQL Server の Transact-SQL 言語で利用可能なすべてのバックアップ タイプおよびバックアップ オプションがサポートされるほか、さまざまな復元シナリオを処理できます。

Volume Shadow Copy Service (VSS)

VSSでは、システム上のアプリケーションがボリュームへの書き込みを続けている間に、ボリュームのバックアップを実行できます。SQL Server 2005/2008 で提供される **SQL Writer** によって、SQL Server の実行中に SQL Server APM などのバックアッププログラムが SQL Server データをコピーできます。

NetVault SQL Server APM のバックアップタイプ。

データベースのフルバックアップ

データベースのフルバックアップでは、データベース全体がバックアップされます。データベースのフルバックアップでは、バックアップごとに必要になる領域および時間がより多くなります。通常は、より頻繁に実行される差分バックアップで補完されます。データベースのフルバックアップでは、データベースを復元することで、1つの手順でデータベース全体を再作成できます。

データベースの差分バックアップ

データベースの差分バックアップでは、前回のフルバックアップ以降に変更されたデータだけをバックアップできます。差分バックアップは、フルバックアップよりもバックアップのサイズが小さく、より迅速に作成されます。データベースの差分バックアップは、データベースのテーブルの一部が他のテーブルよりも頻繁に変更される場合に便利です。その場合、データベースの差分バックアップを行うことによって、フルバックアップのようなオーバーヘッドをかけることなく、頻繁にバックアップを作成できます。

トランザクション ログの増分バックアップ

SQL Server のトランザクション ログは、データの復元に不可欠であり、定期的にバックアップする必要があります。トランザクション ログをバックアップすることによって、データベースを障害発生時点、または特定のポイントインタイムに復元できます。トランザクション ログの増分バックアップでは、すべてのトランザクション ログがキャプチャされます。これには、データベース、ファイル、またはファイルグループの前回のフルバックアップ後、データベース、ファイル、またはファイルグループの前回の差分バックアップ後、トランザクション ログの前回の増分バックアップ後に生成されたトランザクション ログも含まれます。

ファイルおよびファイルグループのフルバックアップ

ファイルおよびファイルグループのフルバックアップでは、1つ以上のファイルまたはファイルグループ内のすべてのデータがバックアップされます。ファイルおよびファイルグループのフルバックアップの完全なセットは、データベースのフルバックアップと同等です。

バックアップタイプの比較

バックアップタイプ	バックアップされるデータ	バックアップ時間	復元時間	記憶領域
フルバックアップ	すべてのデータ	最も遅い	速い	大きい

バックアップタイプ	バックアップされるデータ	バックアップ時間	復元時間	記憶領域
増分バックアップ	新たに変更されたファイルやフォルダのみ	速い	中程度	最も小さい
差分バックアップ	前回のフルバックアップ後に変更されたすべてのデータ	中程度	速い	中程度



第 4 章

NetVault Backup ソフトウェアによる UCS の テスト シナリオ

- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準のフルバックアップ](#), 10 ページ
- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準の増分バックアップ](#), 11 ページ
- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：Volume Shadow Copy Services：フルバックアップ](#), 13 ページ
- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：Volume Shadow Copy Services：増分バックアップ](#), 14 ページ
- [Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準のフルバックアップ](#), 16 ページ
- [Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：増分バックアップ](#), 17 ページ
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：Online Virtual Device Interface：フルバックアップ](#), 19 ページ
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：Online Virtual Device Interface：差分バックアップ](#), 20 ページ
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：Volume Shadow Copy Services：フルバックアップ](#), 22 ページ
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：Volume Shadow Copy Services：差分バックアップ](#), 23 ページ
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：増分トランザクション ログバックアップ](#), 25 ページ
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：フルファイルおよびファイルグループバックアップ](#), 27 ページ

Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：標準のフルバックアップ

説明

NetVault Backup ソフトウェアによる、Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイル（Word、PDF、および Excel）のバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティングシステムは、UCSB シリーズ ブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。このシナリオは、次の組み合わせでテストされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCSB200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCSB200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCSB230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCSB230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCSB250 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCSB250 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップ ソフトウェア クライアントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。

- 3 バックアップ サーバ ソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカル ディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。

手順

- 1 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 2 バックアップ サーバでフルバックアップのスケジュールを設定します。
- 3 バックアップ方法として [Standard]、バックアップ オプションとして [Full] を選択してバックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 5 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準の増分バックアップ

説明

NetVault Backup ソフトウェアによる、Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイル (Word、PDF、および Excel) の増分バックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップソフトウェアクライアントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 バックアップサーバソフトウェアで、C シリーズサーバのローカルディスクをスタンドアロンドライブとして設定します。
- 4 フルバックアップを実行します。

手順

- 1 データファイル (PDF、Word、Excel) をバックアップ場所に追加します。
- 2 クライアントマシンからバックアップするデータファイルを選択します。
- 3 バックアップサーバで増分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップ方法として [Standard] を選択して増分バックアップジョブを実行します。
- 5 手順 1 ~ 4 を 3 回繰り返します。
- 6 最新のセーブセットを選択して復元を実行します。
- 7 C シリーズサーバのローカルディスクからクライアントマシンにデータを復元します。

確認

- 最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。

- 最新のセーブセットを使用した復元によって、最後のバックアップまでデータが復元されたかどうかを確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : Volume Shadow Copy Services : フルバックアップ

説明

NetVault Backup ソフトウェアによる、Volume Shadow Copy Services のフルバックアップを使用した Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイル (Word、PDF、および Excel) のバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティング システムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップ ソフトウェア クライアントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 バックアップ サーバ ソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカル ディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。

手順

- 1 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 2 バックアップ サーバでフルバックアップのスケジュールを設定します。
- 3 バックアップ方法として [VSS]、バックアップ オプションとして [Full] を選択してバックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 5 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ : Volume Shadow Copy Services : 増分バックアップ

説明

NetVault Backup ソフトウェアによる、Volume Shadow Copy Services の増分バックアップを使用した Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイル (Word、PDF、および Excel) のバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップ ソフトウェア クライアントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 バックアップ サーバソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカルディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。
- 4 フルバックアップを実行します。

手順

- 1 データ ファイル (PDF、Word、Excel) をバックアップ場所に追加します。
- 2 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 3 バックアップ サーバで増分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップ方法として [VSS] を選択して増分バックアップ ジョブを実行します。
- 5 手順 1 ~ 4 を 3 回繰り返します。

- 6 最新のセーブセットを選択して復元を実行します。
- 7 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- 最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 最新のセーブセットを使用した復元によって、最後のバックアップまでデータが復元されたかどうかを確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：標準のフルバックアップ

説明

NetVault Backup ソフトウェアによる RHEL 6.1 オペレーティング システムからのドキュメントのバックアップが成功したかどうかを確認します。RHEL 6.1 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップ ソフトウェア クライアントを RHEL 6.1 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 バックアップ サーバソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカルディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。

手順

- 1 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 2 バックアップ サーバでフルバックアップのスケジュールを設定します。
- 3 フルバックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 5 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Linux オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：増分バックアップ

説明

NetVault Backup ソフトウェアによる RHEL 6.1 オペレーティングシステムからのドキュメントの増分バックアップが成功したかどうかを確認します。RHEL 6.1 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップソフトウェアクライアントを RHEL 6.1 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 バックアップサーバソフトウェアで、C シリーズサーバのローカルディスクをスタンドアロンドライブとして設定します。
- 4 フルバックアップを実行します。

手順

- 1 バックアップ場所にドキュメントを追加します。
- 2 クライアントマシンからバックアップするデータファイルを選択します。
- 3 バックアップサーバで増分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップ方法として [Standard] を選択して増分バックアップジョブを実行します。
- 5 手順 1 ~ 4 を 3 回繰り返します。

- 6 最新のセーブセットを選択して復元を実行します。
- 7 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- 最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 最新のセーブセットを使用した復元によって、最後のバックアップまでデータが復元されたかどうかを確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : Online Virtual Device Interface : フルバックアップ

説明

Online Virtual Device Interface のフルバックアップによる MS SQL データベースのバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアントマシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 バックアップサーバソフトウェアで、C シリーズサーバのローカルディスクをスタンドアロンドライブとして設定します。

手順

- 1 データベースにデータを追加します。
- 2 バックアップサーバソフトウェアで、バックアップ方法として [Online VDI]、バックアップタイプとして [Full] を選択します。
- 3 フルバックアップジョブを実行します。
- 4 クライアントマシンからデータベースを削除します。
- 5 C シリーズサーバのローカルディスクから SQL クライアントマシンにデータベースを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータベースをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : Online Virtual Device Interface : 差分バックアップ

説明

Online Virtual Device Interface の差分バックアップによる MS SQL データベースのバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアント マシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 バックアップ サーバソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカルディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。
- 4 データベースのフルバックアップを実行します。

手順

- 1 データベースにデータを追加します。
- 2 バックアップ サーバソフトウェアで、バックアップ方法として [Online VDI]、バックアップタイプとして [Differential] を選択します。
- 3 差分バックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからデータベースを削除します。

- 5 フルバックアップのセーブセットを復元します。
- 6 差分バックアップのセーブセットを復元します。

確認

- 最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- フルバックアップと差分バックアップのセーブセットが正常に復元されたかどうかを確認します。
- 復元後にデータベースをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : Volume Shadow Copy Services : フルバックアップ

説明

Volume Shadow Copy Services のフルバックアップによる MS SQL データベースのバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアント マシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 バックアップ サーバソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカルディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。

手順

- 1 クライアント マシンからバックアップするデータベース インスタンスを選択します。
- 2 バックアップ サーバソフトウェアで、バックアップ方法として [VSS]、バックアップ タイプとして [Full] を選択します。
- 3 フルバックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからデータベースを削除します。
- 5 C シリーズ サーバのローカルディスクから SQL クライアント マシンにデータベースを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータベースをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ : Volume Shadow Copy Services : 差分バックアップ

説明

Volume Shadow Copy Services の差分バックアップによる MS SQL データベースのバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアントマシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 バックアップサーバソフトウェアで、C シリーズサーバのローカルディスクをスタンドアロンドライブとして設定します。
- 4 フルバックアップを実行します。

手順

- 1 データベースにデータを追加します。
- 2 バックアップサーバソフトウェアで、バックアップ方法として [VSS]、バックアップタイプとして [Differential] を選択します。
- 3 差分バックアップジョブを実行します。
- 4 クライアントマシンからデータベースを削除します。

- 5 フルバックアップのセーブセットを復元します。
- 6 差分バックアップのセーブセットを復元します。

確認

- 最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- フルバックアップと差分バックアップのセーブセットが正常に復元されたかどうかを確認します。
- 復元後にデータベースをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：増分トランザクションログバックアップ

説明

バックアップ方法として [Online VDI]、バックアップタイプとして [Incremental Transaction Log] を選択して実行した MS SQL データベースのバックアップとポイントインタイムの復元が成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアントマシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 バックアップサーバソフトウェアで、C シリーズサーバのローカルディスクをスタンドアロンドライブとして設定します。
- 4 データベースのフルバックアップを実行します。

手順

- 1 データベースにデータを追加します。
- 2 バックアップサーバソフトウェアで、バックアップ方法として [Online VDI]、バックアップタイプとして [Incremental Transaction Log] を選択します。
- 3 バックアップジョブを実行します。
- 4 トランザクションログの増分バックアップを 2 回または 3 回実行します。
- 5 クライアントマシンからデータベースを削除します。
- 6 C シリーズサーバのローカルディスクから SQL クライアントマシンに、ポイントインタイムでデータベースを復元します。

確認

- トランザクションログの増分バックアップが成功したかどうかを確認します。
- ポイントインタイムでのデータベースの復元が成功したかどうかを確認します。
- 復元後にデータベースをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：フル ファイルおよびファイル グループバックアップ

説明

バックアップ方法として [Online VDI]、バックアップタイプとして [Full File/Filegroup] を選択して実行した MS SQL データベースのバックアップと復元が成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティング システムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアントマシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。

- 3 バックアップ サーバ ソフトウェアで、C シリーズ サーバのローカル ディスクをスタンドアロン ドライブとして設定します。

手順

- 1 バックアップ サーバ ソフトウェアで、バックアップ方法として [Online VDI]、バックアップタイプとして [Full File/Filegroup] を選択します。
- 2 バックアップ ジョブを実行します。
- 3 クライアント マシンのデータベースからいくつかのファイルを削除します。
- 4 C シリーズ サーバのローカル ディスクから SQL クライアント マシンにデータベースを復元します。

確認

- フル ファイルおよびファイルグループのバックアップが成功したかどうかを確認します。
- データベース内の破損したファイルの復元が成功したかどうかを確認します。
- 復元後にデータベースをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。



第 5 章

CAARCserveBackup ソフトウェアによる UCS のテスト シナリオ

- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常のフルバックアップ, 30 ページ](#)
- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の増分バックアップ, 31 ページ](#)
- [Windows 7 オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の差分バックアップ, 33 ページ](#)
- [Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常のフルバックアップ, 34 ページ](#)
- [Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の増分バックアップ, 36 ページ](#)
- [Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の差分バックアップ, 38 ページ](#)
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：フルバックアップ, 39 ページ](#)
- [MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：差分バックアップ, 41 ページ](#)
- [制限事項 1, 42 ページ](#)
- [制限事項 2, 43 ページ](#)
- [関連資料, 43 ページ](#)

Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：通常のフルバックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアによる、Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイル（Word、PDF、およびExcel）のバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップクライアント エージェントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 C シリーズサーバのローカルディスクをデバイスグループとして追加します。

手順

- 1 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 2 バックアップ サーバソフトウェアで、バックアップ方法として [Normal]、バックアップ オプションとして [Full] を選択して、フルバックアップのスケジュールを設定します。
- 3 バックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 5 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Job Status/Logs Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console/Logs] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の増分バックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアによる、Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイル（Word、PDF、およびExcel）のバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップクライアント エージェントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 C シリーズサーバのローカルディスクをデバイス グループとして追加します。
- 4 フルバックアップを実行します。

手順

- 1 クライアント マシンのバックアップ場所にデータ ファイルを追加します。
- 2 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 3 バックアップサーバソフトウェアで、バックアップ方法として [Normal]、バックアップ オプションとして [Incremental] を選択して、増分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップジョブを実行します。
- 5 手順 1 ~ 4 を繰り返します。
- 6 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 7 C シリーズサーバのローカルディスクからクライアントマシンに増分セーブセットを復元します。

確認

- 増分バックアップ方法を使用して最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の差分バックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアによる、Windows 7 オペレーティングシステムからのデータ ファイル（Word、PDF、およびExcel）のバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 7 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2（仮想マシンとして、Windows 7 の日本語版オペレーティングシステム）	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップクライアント エージェントを Windows 7 マシンにインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 C シリーズサーバのローカルディスクをデバイスグループとして追加します。

4 フルバックアップを実行します。

手順

- 1 クライアント マシンのバックアップ場所にデータ ファイルを追加します。
- 2 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 3 バックアップ サーバ ソフトウェアで、バックアップ方法として [Normal]、バックアップ オプションとして [Differential] を選択して、差分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップ ジョブを実行します。
- 5 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 6 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンに差分セーブセットを復元します。

確認

- 差分バックアップ方法を使用して最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Linux オペレーティング システムからのデータ ファイルのバックアップ：通常のフルバックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアによる RHEL 6.1 オペレーティング システムからのドキュメントのバックアップが成功したかどうかを確認します。RHEL 6.1 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティング システム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD

バックアップ サーバ用に使用した UCS	バックアップ クライアント用に使用した UCS	バックアップ サーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップ クライアント エージェントを RHEL 6.1 マシンにインストールします。



(注) インストールについては、[制限事項 1](#)、[\(42 ページ\)](#) を参照してください。

- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 C シリーズ サーバのローカル ディスクをデバイス グループとして追加します。

手順

- 1 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 2 バックアップ サーバで、バックアップ方法として [Normal]、バックアップ オプションとして [Full] を選択して、フルバックアップのスケジュールを設定します。
- 3 バックアップ ジョブを実行します。
- 4 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 5 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンにデータを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Job Status/Logs Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console/Logs] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Linux オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の増分バックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアによる RHEL 6.1 オペレーティングシステムからのドキュメントのバックアップが成功したかどうかを確認します。RHEL 6.1 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップクライアントエージェントを RHEL 6.1 マシンにインストールします。



(注) インストールについては、[制限事項 1](#)、[\(42 ページ\)](#) および[制限事項 2](#)、[\(43 ページ\)](#) を参照してください。

- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 C シリーズサーバのローカルディスクをデバイス グループとして追加します。
- 4 差分バックアップを実行します。

手順

- 1 クライアント マシンのバックアップ場所にデータ ファイルを追加します。
- 2 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 3 バックアップサーバで、バックアップ方法として [Normal]、バックアップ オプションとして [Incremental] を選択して、増分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップ ジョブを実行します。
- 5 手順 1～4 を繰り返します。
- 6 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 7 C シリーズサーバのローカルディスクからクライアント マシンに増分セーブセットを復元します。

確認

- 増分バックアップ方法を使用して最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

Linux オペレーティングシステムからのデータ ファイルのバックアップ：通常の差分バックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアによる RHEL 6.1 オペレーティングシステムからのドキュメントのバックアップが成功したかどうかを確認します。RHEL 6.1 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、RHEL 6.1 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 バックアップクライアントエージェントを RHEL 6.1 マシンにインストールします。



(注) インストールについては、[制限事項 1, \(42 ページ\)](#) および[制限事項 2, \(43 ページ\)](#) を参照してください。

- 2 クライアントをバックアップ サーバに追加します。
- 3 C シリーズ サーバのローカル ディスクをデバイス グループとして追加します。
- 4 差分バックアップを実行します。

手順

- 1 クライアント マシンのバックアップ場所にデータ ファイルを追加します。
- 2 クライアント マシンからバックアップするデータ ファイルを選択します。
- 3 バックアップ サーバで、バックアップ方法として [Normal]、バックアップ オプションとして [Differential] を選択して、差分バックアップのスケジュールを設定します。
- 4 バックアップ ジョブを実行します。
- 5 クライアント マシンからファイルを削除します。
- 6 C シリーズ サーバのローカル ディスクからクライアント マシンに差分セーブ セットを復元します。

確認

- 差分バックアップ方法を使用して最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアント マシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：フルバックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアのフルバックアップによる MS SQL データベースのバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティング システムは、UCS B シリーズ ブレード サーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアントマシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 C シリーズサーバのローカルディスクをデバイスグループとして追加します。

手順

- 1 クライアントマシンからバックアップするデータベースインスタンスを選択します。
- 2 バックアップサーバソフトウェアで、バックアップタイプとして [Full] を選択します。
- 3 フルバックアップジョブを実行します。
- 4 クライアントマシンからデータベースを削除します。
- 5 C シリーズサーバのローカルディスクから SQL クライアントマシンにデータベースを復元します。

確認

- バックアップが成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータベースをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

MS SQL 2008 R2 データベースのバックアップ：差分バックアップ

説明

CA ARCserve Backup ソフトウェアの差分バックアップによる MS SQL データベースのバックアップが成功したかどうかを確認します。Windows 2008 R2 オペレーティングシステムは、UCS B シリーズブレードサーバ上の仮想マシンとしてインストールされます。

テストした組み合わせ

バックアップサーバ用に使用した UCS	バックアップクライアント用に使用した UCS	バックアップサーバ/クライアント用に使用したストレージ
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B200 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B230 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/NetApp FAS3240 のローカル HDD
UCS C240 M3	UCS B250 M2 (仮想マシンとして、Windows 2008 R2 の日本語版オペレーティングシステム)	UCS C240 M3/EMC CLARiiON CX4-120 のローカル HDD

前提条件

- 1 クライアントマシンに MS SQL 用の APM をインストールします。
- 2 クライアントをバックアップサーバに追加します。
- 3 C シリーズサーバのローカルディスクをデバイスグループとして追加します。
- 4 データベースのフルバックアップを実行します。

手順

- 1 データベースにデータを追加します。
- 2 バックアップサーバソフトウェアで、バックアップタイプとして [Differential] を選択します。
- 3 差分バックアップジョブを実行します。
- 4 クライアントマシンからデータベースを削除します。
- 5 C シリーズサーバのローカルディスクから SQL クライアントマシンにデータを復元します。

確認

- 差分バックアップ方法を使用して最近追加したデータだけが正常にバックアップされたかどうかを確認します。
- 復元が成功したかどうかを確認し、[Status Console] ウィンドウでも確認します。
- 復元後にデータをクライアントマシンで使用できるかどうかを確認します。

制限事項 1

CA ARCserve r16 クライアントエージェントが、『CA ARCserve Linux Agent Installation Guide』に記載されているデフォルトの手順でのインストールに失敗しました。

エラーメッセージ

Cannot locate the file: /root/Desktop/datamoverandagent/linux/.nls/C/install.msg! Exiting...

CA ARCserve Linux エージェントのインストール手順

- 1 すべての glibc パッケージを Red Hat ISO イメージからインストールします。
- 2 CA ARCserve インストール ISO から Linux 仮想マシンに linux フォルダをコピーします。
- 3 **chmod -R 777 LINUX/** コマンドを実行して、そのフォルダにフル権限を付与します。
- 4 以下のコマンドを実行して、エージェント用の 2 つの RPM ファイルをインストールします。
rpm -ivh abcmagt.rpm -force (または) **rpm -ivh abcmagt.rpm -force -nodeps**
rpm -ivh abagtux.rpm -force (または) **rpm -ivh abagtux.rpm -force -nodeps**

- 5 CA ARCserve エージェントが正常にインストールされます。
- 6 CA ARCserve エージェントは、以下のコマンドで起動できます。
caagent enable all および **caagent start**
- 7 **service iptables stop** コマンドを使用して、サービスを停止します。
- 8 バックアップサーバの IP アドレスとホスト名を、/etc/hosts にあるホスト ファイルに追加します。
- 9 ホスト名（バックアップサーバのコンピュータ名）を発行して、バックアップサーバに対して ping を実行します。
- 10 クライアントをバックアップサーバに追加します。Linux マシンがクライアントとしてバックアップサーバに正常に追加されます。

制限事項 2

問題の説明

Linux オペレーティング システムでの差分バックアップで、最近追加されたファイルや最近修正されたファイルがバックアップされません。

解決策

- 1 バックアップサーバにパッチ ファイル T5SO027 を適用します。
- 2 差分バックアップを実行します。（パッチ ファイルの適用後、最初の差分バックアップではフルバックアップが実行されます）。
- 3 Linux OS では、CA ARCserve サーバでアーカイブ ビット レベルのバックアップが実行されません。
- 4 CA ARCserve サーバで、[Files created after and on] および [Date] の条件でフィルタを作成します。
- 5 2 番目の差分バックアップでは、設定した条件ごとに、追加したファイルのバックアップが実行されます。

関連資料

NetVault Backup

<http://www.quest.com/netvault-backup/>

Quest NetVault Backup 8.6.3 Administrators Guide

http://us-downloads.quest.com/Repository/support.quest.com/NetVault%20Backup/8.6.3/Documentation/Quest_NetVault_Backup_8.6.3_Administrators_Guide_English.pdf

Quest NetVault Backup 8.6.3 Configuration Guide

http://us-downloads.quest.com/Repository/support.quest.com/NetVault%20Backup/8.6.3/Documentation/Quest_NetVault_Backup_8.6.3_Configuration_Guide_English.pdf

CA ARCserve Backup

<http://www.arcserve.com/us/products/backup.aspx>

CA ARCserve Backup r16 Bookshelf

<http://support.ca.com/cadocs/0/CA%20ARCserve%20%20Backup%20r16-ENU/Bookshelf.html>